

1801

滿州委任統治案

昭和七年五月二十九日

(学良王)



聯盟

「アイツ等を追ッ拂ッて
みんなで一仕事を
しやうじやないか



大滿洲国 閑人免進

大同元年

日滿

「アザける
あい



1802

危機迫る

昭和七年五月三十日



1803

緊急問題

昭和七年六月二日



對支問題

滯絲問題

貨資問題

耐死問題

退師問題



1804

滿洲國歌（鄭總理作）

昭和七年六月四日



一、地闊兮。天開松之涯兮。百之隅。

二、我伸大義兮。繩於祖武。

三、我行博愛兮。懷於九域。

四、善守國兮。以仁。不善守兮。以兵。

五、天不愛道。地不愛寶。貨惡其

棄於地兮。獻諸蒼昊。

六、何非橫目之民兮。視此洪造。

1805

瀕死の農民(恐るぎ竹槍)

昭和七年六月五日



「餓死するか
磔みあるか」



1806

不良少年跳梁
昭和七年六月六日



甲
「チヤット
墓口を失敬
して来た」

乙
「人ヤツケた
とても痛快だ」

丙
「レでオトカスと
大い成功する」



1807

ファッション

昭和七年六月八日



「ファッション」

1808

満洲四頭政治

昭和七年六月九日



「これでは
歩け
かい
筈だ」



1809

平價切り下げ問題

昭和七年六月十日



三人寄れば文珠の智慧、
三百三寄れば政友のへま、

政友幹部

「五分の二に切り
下げるんだ」



高橋老
「馬鹿、
よく考へて
見ろ、」

1810

忠臣馬占山(支那喜劇)

昭和七年六月十一日



馬

我れ一旦身を屈して、滿洲政府に仕へしは、
 日本のためを謀らん為め、今こそやとに返り咲き、
 花は散るとも末代の、名を残さんず我が心、
 勝ち誇りたる日本を、海を渡りて追ひ退け、
 無念の涙さくれ給ふ、御曹司夢良きみを、
 再び滿洲国王と、仰きまつらん日頃の願望、
 やい、近く聞ゆる蘇波の声、スハ日本軍押
 し寄すると覺へたり、いで一といきまして
 馬占山が、死傷狂みの武勇を見せん。

1811

耆婆扁鵲何處か在る

昭和七年六月十三日



農民

「助けて下さい」

数醫連

甲医

モラトリ散
を飲ま

せよう

乙医

平價切下た
がよかる

う

丙医

「鬼子角

融資液を

注射することだ



1812

覆水盆に還らず

昭和七年六月十五日



若槻

俺は煮へ湯を飲ませやがった不貞腐れ
阿魔め、二度と敷居はまたがせぬ。



安達党

「お母さんを入
入れて上げてよー」

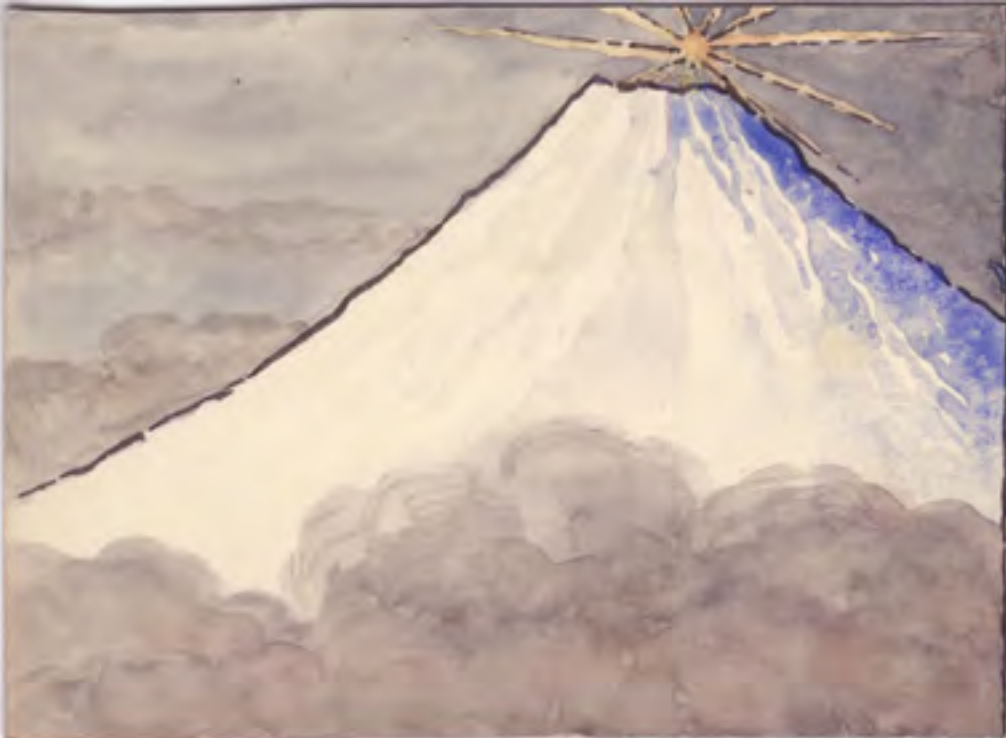
安達

「アラ、まだあんふ
愚痴を言ってるよ」



1813

富士山頂に輝く電燈
昭和七年六月十六日



1814

北斗以南是皇國

昭和七年六月廿二日



日本の
しづめは
富士の山
からで
烏拉雨
亜爾泰
興安の
嶺



1815

傍若無人

昭和七年六月二十四日



米
軍備三分の一の
天引きは賛成
しろ
夫がいやなら
戦債引きは
不承知だ



1816

冥府の好景氣

昭和七年六月廿五日



死簿係
とう忙
ては
早く
電



1817

暹羅革命

昭和七年六月廿五日



国民

立憲政治を革め

られよ

若し聴かぬれば

共和政治を行ふ

国王

朕汝等の

要望を

嘉納す



1818

冥土の旅へ

自四月一日
至六月三十日

昭和七年六月三十日



岡田信一郎五〇

ロバート・ダウー八八

肥田 景之八三

今西 龍五八

江戸家猫八六五男爵白川義則六六

高橋光威六六 末延道成七八

末廣恭二五六 関根正直七三

仁尾惟茂八五 武田千代三郎六六

伯爵松平直之七二 木村庄之助六四

ホクロフスキー六四 山内多門五五

安樂兼道八三 白井光太郎七〇

竹村欽次郎 遠藤武治五八

河端貞次五九 福田雅太郎六六

ホーレ、ツメ七四 西川鐵次郎八〇

久未金弥六八 横山一平七〇

田中王堂六六 一瀬勇三郎七九

宮崎虎一四九 守田勘弥四八

犬養毅七八 松下禎二五八

男爵小原銈吉六三 井上 範五八

1819

大連税関問題
昭和七年七月三日



支那
泥棒！
返せ

満洲
馬鹿
言へ

日本
坊や！



1820

聯盟調査團複た来る

昭和七年七月四日



下女

「また来たよ、
五月蠅い
お客だね」

リットン

「…成る程ね、支れて
結局ドウいふお考へで…」



1821

満洲国承認を懇望
昭和七年七月五日



丁使節
承認して
頂戴ヨー

日本
「マ」お待ちよ
意地わるぢいさん
がいらんで居る
から



1822

共産党員断罪

昭和七年七月六日



死刑 畠村四郎

無期懲役 佐野學

同 市川正一

同 鍋山貞親

年齢	男	女	合計	1823
15 ^才 以下	458	249	707	島和七年育 至同育家出人 昭和七年七月八日 分警方系 
16-18	1232	925	2157	
19-21	1344	1014	2358	
22-25	1410	1447	2857	
26-30	1032	788	1820	
31-59	1887	494	2231	
60-以上	128	71	199	
合計	7491	4838	12329	

原因	男	女	合計
家庭不和	238	321	559
生活難	37	26	63
病氣, 厭世	94	30	124
放蕩, 不良	224	50	274
都會憧憬	450	164	614
戀愛駢落	59	88	147
失戀	11	27	38
愛人を尋ねて	29	83	112
虚栄心, 嫁娶をさるゝ維 忠願, 忠告をせしめられ 業務をさるゝ等	1298	768	2066
合計	2440	1557	3997

1824

家出の原因
 (本年上期終数二万二千
 三百九十九人中判明の分)
 昭和七年七月八日



1825

永井拓相 岸本樺太長
官を識る

昭和七年七月八日



岸本
左一。
だまし討ち
とは卑怯
千萬。
生き代り死
に代りこの
恨。やい
らきで置く
べきか。

1826

調査團悄然として去る

昭和七年七月十六日



リットン

「日本の野郎め、
アー鼻ツバシが
強くてはドーにあふらん
コンナ答では
ふかつたが……」



1827

熱河省長湯玉麟叛す
昭和七年七月十九日



Copyright 日本建築学会



湯玉麟

「夢良めが
行けと言ふ
から来て見
たが、
何たか變な
ぞ」

1828

三面六臂(軍部の意氣)

昭和七年七月廿二日



アメリカ

支那

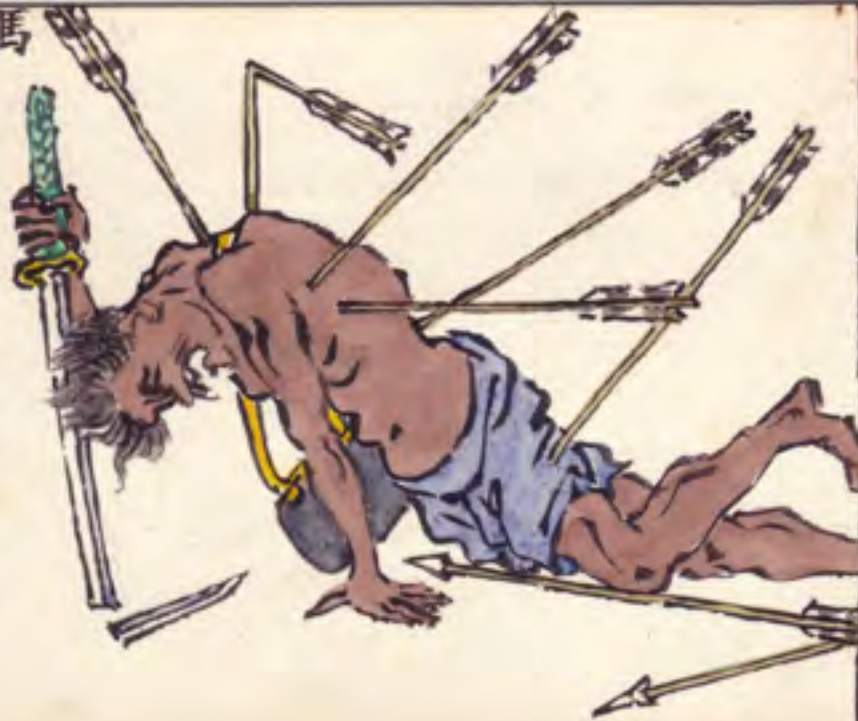
ロシア



1829

馬占山戦死す

昭和七年七月三十日



馬

アール・よせばよかった。没法子とあきらめ
ゆらやうがあきらめらるるぬい三百万円だ

1830

馬占山の逃路

昭和七年八月一日



馬占山脱走経路図



1831

オリムピック競技開く

(ロンドン・シエルスまで) 昭和七年八月一日



1832

日本優勝オリムピック競技
昭和七年八月五日



南 部 忠 平

あが待望の三段跳は果して
期待にそむかず十五米七二
の世界記録を作つて優勝し
あが同胞のはふり落つる感
激の涙のうちにもーンマス
ト高く日章旗がひるがへり
本大會はじめて君が代が
奏でられた



1833

輝白本の優勝
（オリエント
競技）

昭和七年八月八日



百米水泳
宮寄康二十才
五八二秒にて
才一着
河石才二着
高橋才五着



1834

松花江未曾有の洪水

昭和七年八月八日



浸水家屋 約十萬
溺死人 二萬八千
潰失家屋 千四百
潰倒家屋 二千八百
罹災民 三十六萬人

水害の北滿地方



損害五千万元以上



1835

ヤンキーの見た日本人
昭和七年八月九日



ヤンキー

シヤツプほど

不思議な民族

は無い

勇ましいとて泣き

けふげだとて泣き

嬉しいとて泣き

有り難いとて泣き

惜しいとて泣き

申し譯がふいとて泣き

いぢらしいとて泣き

憎らしいとて泣く

学校の先生を恩師だふと肝銘し

親鬼ひを孝子だふと感心する

矢張り未開民族の

センチメンタリズムだ



1836

万漢スチムソンの毒舌
昭和七年八月九日



スチムソン

「日本は不戦條約を蹂躪した

日本は全満洲を占領した

日本は侵略者だ

米国は満洲国を承認せず

米国は聯盟と協力して日本

の暴舉を阻止せん

1837

九十翁田中光顯伯立つ

昭和七年八月九日



甲中

不忠不臣の

伸顯、喜徳郎

よく承はれ

汝等張りに

君寵に狎れて

皇国の休戚を

念はず……





1839

水の王国日本（オリエント）
昭和七年八月十三日



百米背泳
日本全勝

一、清川、

二、入江

三、河津

果して皆水に
縁あり



1840

世界の覇王水泳の日本

オリンピック競技(昭和七年八月十四日)



二百米平泳

一等鶴田義行(二、四五、秒)

二等小池礼三(二、四六、六)

千五百米

一等北村寿雄(一九、一二、四)

二等牧野正藏(一九、三九、五)



1841

天馬空を行く

（オリムピック競技）

昭和七年八月十四日



男爵西中尉愛馬ウラヌス
を駆て馬術大障礙物競技に
優勝す



1842

張學良下野？！

昭和七年八月十五日



學良

「自業自得と云ひながら。」

親譲りの満州は棒に振る。

中国からは追ひ出される。

世も人も見放されたが。

肌身放さぬ千萬両。

これさへあきば大丈夫。

運は天にあり。

ぼた餅は棚に

有り

あけの月を

たよりの

都落ち。

ドリヤ、巴里の

花でも手折りに

行かうか。



同窓棋友八天狗
 舉端相術爭雄
 每月一回迴宅會
 時浴函根又熱海
 新設規約總勝敗
 僕手助言嚴禁之
 三勝幾度變手合
 全勝更得一勝星
 自午到子不知倦
 興次幕加入無我
 管烟濛々人欲咽
 配膳既登呼不應
 漸臨卓餐酒盡冷
 手著猶且眠盤上
 宮運豪食不覺味
 餐畢陶然氣更昂
 長考無策浪費時
 延思過謀屢悲鳴
 頻勢既決不拋石
 徒弄手段伴萬一
 勝者得勢吐氣焰
 敗者惜負陳理窟
 噫研鑽技幾十年
 齡入老境技不逮
 願前途真不洋洋
 畢竟終生不脫派
 過譽我有專門學
 餘技巧拙何足論
 洗去俗塵癩斯道
 素月一痕懸天心
 杉風吹送木葉音
 天狗飛散四隅聞



	期 間
人 類 (成人)	30 日
同 (小児)	5 ヶ
百 鼠	3 ヶ
モルモット	8 ヶ
鳩	11 ヶ
鶏	14 ヶ
家 兔	15 ヶ
猫	30 ヶ
豚	34 ヶ
蟹	35 ヶ
大 亀	38 ヶ
亀	8 月
蛙	9 ヶ
山椒 臭	12 ヶ
蜘蛛	17 ヶ
蝎	21 ヶ
蝸 牛	24 ヶ
ガラガラ 蛇	27 ヶ
甲 蟲	60 ヶ



1845

圖價暴落(千二弗臺)

昭和七年八月二十日



大變



1846

臨時議會開く

昭和七年八月二十三日



民政
「ヤンワリやつて呉れ



首相

オイ

親方衆

喧嘩しふいで

やつて呉れ



政友

悪化けて見た上のことだ



1847

痴豎學良(下野外遊取瀆)

昭和七年八月二十四日



蔣介石

「もう少しアイツを生かして
置く方が
好都合
だ」



學良

「有り難い。」

下野はお蔭で
助かった。

矢ッ張り蔣さんはエライ、
いまに満洲を取りかへして
貰へるだろー



1848

内田外相獅子吼

昭和七年八月二十六日

満洲国
師題



内田

日本が焦土と

ふるとも我が

主張を徹底

する

英
当然だ

米

コリヤ

驚い

た

支

恐ろしい

権幕だ



1849

聯盟調査團製書作製難
昭和七年八月二十八日



甲
何と
書く
救り
かしら
乙
アヘミ
困つて
居や
がる

リットン

「不得要領で、尤もらしく
書かにはやゑらんのだから
辻も六ヶ敷い。」



1850

明糖大脱税

昭和七年八月三十日



吐々怪事
巨鯨を逸
して細鱗を
虐捕するもの



1851

皇國競技選手凱旋す

昭和七年九月三日



飴利貸合醜国
荷堀荷屋洲
勞散錢児市
汚倫比丘競技
に参加の
皇国選手
凱旋す



1852

臨時議會終了

昭和七年九月四日



凄幽怪喜三郎

「通しまくいゝんだが、奇賊院親方の顔に
めんどて今度は御慈悲に通してやろう」

奇賊院長兵衛



やいとう屋

まこと

1853

竊盜學士良

(文華武英兩殿の国宝を盗む)

昭和七年九月六日



米国骨董屋

世界的絶品一千点、

捨賣しても一億元、

知らぬが佛の

馬鹿学良、

タタ二千万円で

手放したは近頃の

傑作だ、

学良

アのがラクダが

二千万元、

有り難いふあ

流石に米人は

大きいぜい、





1854
獅豹を咬殺す
（上野動物園の珍事）
昭和七年九月十四日
大正

1855

日本

皇国満洲国を承認す

昭和七年九月十五日



乱行非道の
親を見限り、
拙者に
頼つて
来た
おさふ兄、
今より別家
の主人とあし、
拙者しかと後見
致す、
方々左様
御承知あれ



1856

西藏獨立を企つ

昭和七年九月二十二日



南京政府

「助けて
くれ」

蒙古

俺も獨立
したいよ

新疆

俺も獨立
しやうか



廣東

「いくち無しの
南京、
ザマー見
ろ」

西藏

「やい南京、
俺も獨立
するぞ」

1857

千萬人と雖我行かん

昭和七年九月廿三日

(日本の覚悟)



1858

逝ける人

自七月一日
至九月三十日

昭和七年九月三十日



能見愛太郎六三

ジレット 七九

柄内曾次郎六七

小野方良行八一

佐原篤介五九

桐谷洗鱗五六

伯勝 精四五

子山口弘達

川上邦彦六四

清水小一郎七九

青木正太郎七九

男日高壯之壘八五

鹿島房次郎六五

横山桐郎三九

宮田三郎

平山金藏五七

馬占山

伊井容峯六二

瀧本誠一七四

三宅英慶六四

子花房太郎六〇

江木千之八〇

柵瀬軍之佐六四

男安東貞美八〇

川瀬善太郎七一

棟居喜久馬

張宗昌

三谷長三郎

宿利英治六三

岡野知十七三

江木翼六〇

大西克知

田九卓郎六一

湯河元臣六八

1859

大東京市出現

昭和七年十月一日



大東京市

「躍七倍の大きに

あつた世界オニ

だぞ、ドーダ

立派たろう

皮肉家

「脳味噌

はチット

り大きく

あらん

じや

ふい



1861

大東京百名必

時事新報社
昭和七年十月一日



(1) 神社名所 (20)

靖国神社
日枝神社
紫又帝釈天
西新井大師
目黒不動
池上本門寺
浅草観音
乃木神社
ニコライ會堂
霞が関記念堂
穴守荷梯
亀戸天神
増上寺
發地本願寺
水天宫
雑司が谷鬼子母神
護国寺
堀，内妙法寺
奥沢九呂寺
警神社

(2) 史蹟 (10)

品川台堀
龜士，墓(根岳寺)
櫻田門
天口，酒
徳川氏墓(上野)
湯島聖堂

小石川後樂園
南千住回向院
向島百花園
常盤橋門趾

(3) 公園名所 (12)

日比谷公園
上野公園
隅田公園
植物園
芝公園
神宮外苑
旧芝離宮
清澄公園
曹島園
多摩川園
王子名主園
堀切菖蒲園

(4) 眺望 (10)

愛宕山
飛鳥山
江戸川堤
道躰山
代々木原
北品川天王社
戸山ヶ原
高井戸杉並木
猪乳山公園
森塚城址

(5) 水景 (7)

洗足池
三宅寺池
三宅坂附近
荒川放水路
神慶橋附近
鍾ヶ淵
水元水郷

(6) 建築 (12)

国技館
議事堂
歌舞伎座
帝國ホテル
外苑鐘面館
丸の内ビルディング
三越

(7) 福 (6)

日本銀行
帝室博物館
日比谷公会堂
首相官邸
大倉集古館
兩國橋
永代橋
聖橋
日本橋
清洲橋
六郷橋

(8) 街路 (6)

宮城外苑(馬場先勝)
神宮表參道
丸根坂
昭和通り
京浜国道
環状線道路

(9) 盛り場 (7)

銀座
新橋
浅草
道玄坂
神樂坂
麻布十番
小山銀座

(10) その他 (10)

東京駅
東京帝國大學
羽田飛行場
奥市場
地下鉄道
芝浦埠頭
上野駅
田園調布
秋葉原駅
和田煉炭水場

1860

大東京の面積と人口

昭和七年十月二日



大東京人口

五百卅一万人

舊市部 二百四十萬四百十八人

新市部 三百廿一万五千八百八人

[illegible][illegible]

張	紙	150°
野	帳	160°
麗	帳	170°
江	三	180°
南	門	190°
包	門	200°



東京市長 永田 秀次郎

東京府と東京市の境界

東京府と東京市の境界

東京府と東京市の境界

東京府と東京市の境界

東京府と東京市の境界

東京府と東京市の境界

東京府と東京市の境界

東京府と東京市の境界

東京府と東京市の境界

東京府と東京市の境界

東京府と東京市の境界

東京府と東京市の境界

東京府と東京市の境界

東京府と東京市の境界

東京府と東京市の境界

東京府と東京市の境界

東京府と東京市の境界

東京府と東京市の境界

東京府と東京市の境界

東京府と東京市の境界

東京府と東京市の境界

東京府と東京市の境界

東京府と東京市の境界

東京府と東京市の境界

東京府と東京市の境界

東京府と東京市の境界

東京府と東京市の境界

東京府と東京市の境界

東京府と東京市の境界

東京府と東京市の境界

東京府と東京市の境界

東京府と東京市の境界

東京府と東京市の境界

東京府と東京市の境界

東京府と東京市の境界

東京府と東京市の境界

東京府と東京市の境界

東京府と東京市の境界

東京府と東京市の境界

東京府と東京市の境界

東京府と東京市の境界

東京府と東京市の境界

東京府と東京市の境界

東京府と東京市の境界

東京府と東京市の境界

東京府と東京市の境界

東京府と東京市の境界

東京府と東京市の境界

東京府と東京市の境界

東京府と東京市の境界

東京府と東京市の境界

東京府と東京市の境界

東京府と東京市の境界

東京府と東京市の境界

東京府と東京市の境界

東京府と東京市の境界

東京府と東京市の境界

東京府と東京市の境界

東京府と東京市の境界

東京府と東京市の境界

東京府と東京市の境界

東京府と東京市の境界

東京府と東京市の境界

東京府と東京市の境界

東京府と東京市の境界

世界大都市の面積及人口

都市名	面積	人口	調査年次
ロンドン	690	4,600,000	1925年
パリ	784	2,900,000	1925年
ニューヨーク	1,213	2,360,000	1925年
東京	1,300	2,300,000	1925年
上海	1,400	2,200,000	1925年
北京	1,500	2,100,000	1925年
大連	1,600	2,000,000	1925年
神戶	1,700	1,900,000	1925年
大阪	1,800	1,800,000	1925年
名古屋	1,900	1,700,000	1925年
京都	2,000	1,600,000	1925年
福岡	2,100	1,500,000	1925年
札幌	2,200	1,400,000	1925年
仙台	2,300	1,300,000	1925年
広島	2,400	1,200,000	1925年
岡山	2,500	1,100,000	1925年
熊本	2,600	1,000,000	1925年
鹿児島	2,700	900,000	1925年
那覇	2,800	800,000	1925年

東京市面積及人口累年比較

年次	面積	人口
明治二十一年	1,213	2,360,000
明治二十二年	1,213	2,360,000
明治二十三年	1,213	2,360,000
明治二十四年	1,213	2,360,000
明治二十五年	1,213	2,360,000
明治二十六年	1,213	2,360,000
明治二十七年	1,213	2,360,000
明治二十八年	1,213	2,360,000
明治二十九年	1,213	2,360,000
明治三十年	1,213	2,360,000
明治三十一年	1,213	2,360,000
明治三十二年	1,213	2,360,000
明治三十三年	1,213	2,360,000
明治三十四年	1,213	2,360,000
明治三十五年	1,213	2,360,000
明治三十六年	1,213	2,360,000
明治三十七年	1,213	2,360,000
明治三十八年	1,213	2,360,000
明治三十九年	1,213	2,360,000
明治四十年	1,213	2,360,000
明治四十一年	1,213	2,360,000
明治四十二年	1,213	2,360,000
明治四十三年	1,213	2,360,000
明治四十四年	1,213	2,360,000
明治四十五年	1,213	2,360,000
明治四十六年	1,213	2,360,000
明治四十七年	1,213	2,360,000
明治四十八年	1,213	2,360,000
明治四十九年	1,213	2,360,000
明治五十年	1,213	2,360,000
明治五十一年	1,213	2,360,000
明治五十二年	1,213	2,360,000
明治五十三年	1,213	2,360,000
明治五十四年	1,213	2,360,000
明治五十五年	1,213	2,360,000
明治五十六年	1,213	2,360,000
明治五十七年	1,213	2,360,000
明治五十八年	1,213	2,360,000
明治五十九年	1,213	2,360,000
明治六十年	1,213	2,360,000
明治六十一年	1,213	2,360,000
明治六十二年	1,213	2,360,000
明治六十三年	1,213	2,360,000
明治六十四年	1,213	2,360,000
明治六十五年	1,213	2,360,000
明治六十六年	1,213	2,360,000
明治六十七年	1,213	2,360,000
明治六十八年	1,213	2,360,000
明治六十九年	1,213	2,360,000
明治七十年	1,213	2,360,000
明治七十一年	1,213	2,360,000
明治七十二年	1,213	2,360,000
明治七十三年	1,213	2,360,000
明治七十四年	1,213	2,360,000
明治七十五年	1,213	2,360,000
明治七十六年	1,213	2,360,000
明治七十七年	1,213	2,360,000
明治七十八年	1,213	2,360,000
明治七十九年	1,213	2,360,000
明治八十年	1,213	2,360,000
明治八十一年	1,213	2,360,000
明治八十二年	1,213	2,360,000
明治八十三年	1,213	2,360,000
明治八十四年	1,213	2,360,000
明治八十五年	1,213	2,360,000
明治八十六年	1,213	2,360,000
明治八十七年	1,213	2,360,000
明治八十八年	1,213	2,360,000
明治八十九年	1,213	2,360,000
明治九十年	1,213	2,360,000
明治九十一年	1,213	2,360,000
明治九十二年	1,213	2,360,000
明治九十三年	1,213	2,360,000
明治九十四年	1,213	2,360,000
明治九十五年	1,213	2,360,000
明治九十六年	1,213	2,360,000
明治九十七年	1,213	2,360,000
明治九十八年	1,213	2,360,000
明治九十九年	1,213	2,360,000
明治一千年	1,213	2,360,000



大東京人口

五百卅一万人

舊市部 二百十萬四千四百十八人
新市部 三百廿一万五千五百八十八人

麹町 一、〇〇〇、〇〇〇
神田 一、〇〇〇、〇〇〇
日本橋 一、〇〇〇、〇〇〇
芝罘 一、〇〇〇、〇〇〇
麻布 一、〇〇〇、〇〇〇
赤坂 一、〇〇〇、〇〇〇
四谷 一、〇〇〇、〇〇〇
牛込 一、〇〇〇、〇〇〇
小石川 一、〇〇〇、〇〇〇
本郷 一、〇〇〇、〇〇〇
下谷 一、〇〇〇、〇〇〇
浅草 一、〇〇〇、〇〇〇
本所 一、〇〇〇、〇〇〇
深川 一、〇〇〇、〇〇〇
計 一、〇〇〇、〇〇〇

品川 一、〇〇〇、〇〇〇
目黒 一、〇〇〇、〇〇〇
荏原 一、〇〇〇、〇〇〇
大森 一、〇〇〇、〇〇〇
蒲田 一、〇〇〇、〇〇〇
世田谷 一、〇〇〇、〇〇〇
澁谷 一、〇〇〇、〇〇〇
淀橋 一、〇〇〇、〇〇〇
中野 一、〇〇〇、〇〇〇
杉並 一、〇〇〇、〇〇〇
豊島 一、〇〇〇、〇〇〇
目黒 一、〇〇〇、〇〇〇
荒川 一、〇〇〇、〇〇〇
王子 一、〇〇〇、〇〇〇
板橋 一、〇〇〇、〇〇〇
足立 一、〇〇〇、〇〇〇

向島 一、〇〇〇、〇〇〇
城東 一、〇〇〇、〇〇〇
葛飾 一、〇〇〇、〇〇〇
江川 一、〇〇〇、〇〇〇
計 一、〇〇〇、〇〇〇
合計 一、〇〇〇、〇〇〇

東京市長 永田 秀次郎



小石川 三、三〇、三八
本郷 三、三〇、三八
下谷 一、〇〇、〇〇
浅草 一、〇〇、〇〇
本所 一、〇〇、〇〇
深川 一、〇〇、〇〇
計 三、〇〇、〇〇

杉並 三、三〇、三八
豊島 三、三〇、三八
豊島 三、三〇、三八
荒川 三、三〇、三八
王子 三、三〇、三八
板橋 三、三〇、三八
足立 三、三〇、三八

1860

大東京の面積と人口

昭和七年十月一日



六大都市の面積比較	
東京市	一六七、一六三、四三二 ^坪
京都市	八七、四一八、〇〇六
大阪市	五六、〇〇一、一九七
名古屋市	四五、〇五一、〇三四
横浜市	四〇、四九七、四〇八
神戸市	二四、七七四、三三五

六大都市の人口比較	
東京市	四、九七〇、八三九 ^人
京都市	二、四五三、五七三
大阪市	九五二、四〇四
名古屋市	九〇七、四〇四
神戸市	七八七、六一六
横浜市	六二〇、三〇六



世界大都市の面積及人口

都市名	面積	人口
パシフィカ	2,100,000 ㎡	1,100,000 人
ロンドン	1,500,000 ㎡	1,000,000 人
ニューヨーク	1,200,000 ㎡	1,000,000 人
東京	1,000,000 ㎡	1,000,000 人
大阪	1,000,000 ㎡	1,000,000 人
上海	1,000,000 ㎡	1,000,000 人
...	...	...



1862

調査團の報告公表

昭和七年十月二日



「日
何だ！
馬鹿か！」



「支
ア、支け御馳走したんだもの、モット
有利に書いて呉れようかものだ、



「米
至極結構

「支那もよくない
が日本がわるい
三満洲は支那の
ものだ
三満洲獨立は
日本の使噓だ
四満洲國承認
は出来かい
五満洲を自治
國とし聯盟で
之を管理する
六日本の權益
は認めてやる
八満洲の日本軍
を撤退せしめ
憲兵隊で守
らしめる

1863

リットン報告書検討
昭和七年十月四日



甲 実に

美しい
霊蟲だ

乙 一寸面白い
處がある

丙 出鱈目
のインチ
キだ

丁 有害なる
毒蟲だ

戊 サバリ
為体が知れぬ



1864

混沌たる支那

昭和七年十月五日



山東

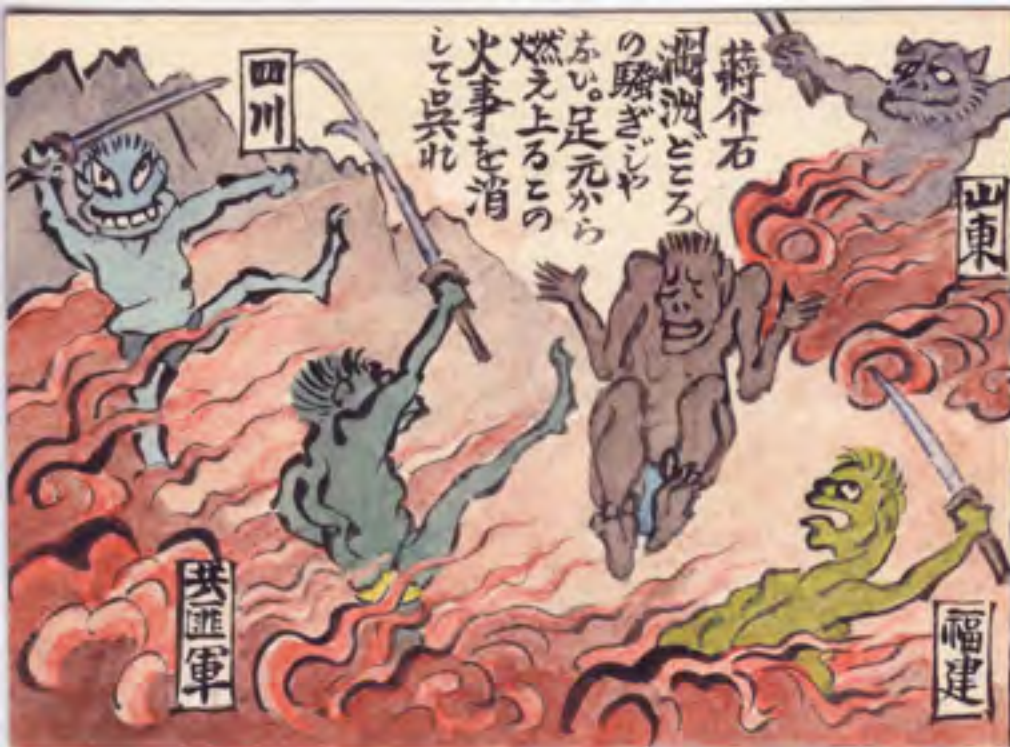
福建

蒋介石

濁洲どころ
の騒ぎじゃ
ない。足元から
燃え上るこの
火事を消
して呉れ

四川

共進軍



1865

神土の賽銭(一萬円以上)
昭和七年十月七日

二十万円以上	伏見稻荷	一万円—三万円	平安神宮
十五万円—二十万円	金比羅宮	ク	吉田神社
十万円—十五万円	東照宮(日光)	ク	鎌倉宮
ク	熱田神宮	ク	鶴岡八幡宮
五万円—十万円	石清水八幡宮	ク	生田神社
ク	北野神社	ク	長田ク
ク	住吉ク	ク	湊川ク
ク	春日ク	ク	諏訪ク
ク	砥鹿ク	ク	永川ク
ク	塩竈ク	ク	香取ク
ク	巖崎ク	ク	鹿島ク
ク	出雲大社	ク	唐澤山ク
ク	二荒山神社	ク	櫛原神宮
三万円—五万円	八坂ク	ク	真清田神社
ク	弥考ク	ク	津嶋ク
ク	大神ク	ク	戸隠ク
ク	多賀ク	ク	大月ク
ク	生魂ク	ク	美保ク
ク	浅間ク	ク	吉備津ク
一万円—三万円	札幌ク	ク	大森比古ク
ク	箱館ク	ク	箱崎宮
ク	日枝ク	ク	大塚府神社
ク	加茂別雷神社	ク	鹿見島ク
ク	松尾神社	ク	三嶋神社

1866

赤色ギャンブル

昭和七年十月六日
川崎才百銀行大支店を
襲ひ三万餘円を強奪す



「動く
うづぞ」

米
「日本中
進歩した」

店員九人
いのちばかり
はお助け
下さい



1867

早稻田大學五十年祭

昭和七年十月十七日



高田早苗像
藤井祐浩作



大隈重信像
朝倉文吏作



1868

山口貯水池成る

昭和七年十月十九日



1869

バラク氏五體揃ふ
昭和七年十月二十一日



ハツに切られた五躰
ハケ月目に揃ふ



年次	死亡数
1917—1921	58,553 ^人
1922—1926	98,551
1927—1931	152,732



1870

蠻国アメリカの殺人車
(自動車事故に由る死亡数)

昭和七年十一月一日



1871

米國大統領改選
ルーズヴェルト當選

昭和七年十月九日



熊のルーズヴェルト
狸のフーヴァーを
斃す

1872

開闢以來の大豫算 (三十二億三千萬円)

昭和七年十一月十日



1873

十三年振の颱風

昭和七年十一月十四日



風速十四日夜半二十一米、瞬間秒速三十五米、
雨量十四日午前六時より十五日午前六時まで二〇六
ミリ。

（大正九年九月三十日関東颱風々々速二十四米）
（大正六年十月一日東京市颱風々々速二十七米）
潰倒家屋百余
浸水家屋四萬二千戸（一府七縣被害地を括ける）
死傷百六十六、家屋五万以上
横浜全壊三百、死傷三十、行方不明二十六



1874

鎧袖一觸

（聯盟理事會開會）
昭和七年十月二十一日



小国連
顧維均！
負けるか！
松岡を倒せ！



1875

你們上那兒去

昭和七年十一月廿四日



1876

鼠賊蘇炳文

昭和七年十月二日



蘇炳文
「おーい！」
南京！
助けて呉れ

日本
「頭から
喰はうか
尻から
喰はうか」

南京
「来いといふたので、
行かりよか満州へ、
満州はうしろら

鬼門
「じゃあ
あいが



1877

窮鳥
懐に
こて
獵師
に捕
へらる

蘇炳文露領手通竄
昭和七年十二月六日
（武裝を
解除さる）

煙

露

蘇

目



1878

聯盟總會

(日本包圍)
攻撃

昭和七年十二月七日



日本

支

支

愛

威

瑞典



遠からん
由のは音に
も聞け、近くは
よつて目まも
見よ。昔々、
からの神の国
仁義武勇に
高き名の、
世界に轟く大日本
有象無象の蠅虫
めら、東はあつて
かゝつて来い。

1879

白木屋燬く

(死者十数
負傷百餘)

昭和七年十二月十六日



朝ほらけ
都大路の

白木屋に

赤き煙の

立ちのぼる

見ゆ

四階より発火

と階まで焼く

損害三四百万円

保阪金額千三百万円



1880

勅題
朝の海

昭和七年十二月十六日



1881

露支國交復旧

昭和七年十二月廿六日



露
「久しぶりだ
ウンと飲め

支
「ありがてい、
兄キ、頼むぜ



1882

本年の畧譜

昭和七年十二月三十一日



種類

事項

場所

月次

官歴

警員檢定試験委員被仰付

内閣

四月

淺草善光寺

三月

大坂、坂急ビル内部裝飾残工事

三月

靖国神社貴賓館

靖国神社

五月

有反鋸藏氏邸内鳥居

八月

靖国神社石鳥居及狛犬

靖国神社

十月

橋本车内墓本堂堂

南千住回向院

九月

高尾山石塔

高尾山

十月

博文寺碑亭

博文寺

十月

支那建築の特性

東北帝国大学

三月

日本文化の由来

羊毛会

五月

圖案化されたる文字

書道会

七月

神社の語

一高昭信会

九月

漢鮮建築の再吟味

朝鮮建築会

十月

善光寺如来傳來の就て

友于會

十二月

工事

講

演

1884

昭和癸酉

昭和八年一月一日

戌申の
仲をとりもつ
とりの歳





1885
日支山海関に戦ふ
昭和八年一月三日



1886

酉の春

昭和八年二月三日



よみ人しまず

止利濃波留
歳多礼流賀
茂也起儀須可
里斑鳩能佐登
乃君通崇壽
迷舞



1887

共匪千五百名檢舉

昭和八年一月十八日

昭和七年十月三十日の事件



河上肇

大塚金之助



1888

永田東京市長辞職す

昭和八年一月十九日



1889

悲惨極まる国際聯盟

昭和八年一月二十日



日

グズぐぬかすと
脱退するぞ

聯盟

「日本を
とつちめろ

露
面白



米



「馬鹿な奴等だ



1890

南米ぞたく

昭和八年正月廿五日



1891

熱河問題

昭和八年二月六日



支那
日本の大泥棒めが熱河を押破つて
北平、天津を取りに来るんです
何とかしてお呉んください

聯盟

「シン。ヘーするホ
日本をタ、キつけて
やる



1892

和協絶望

昭和八年二月十日



聯盟

滿州国承認を取り消すか
どうか？サー返答しろ

日本
ダメレ
無礼
者めが



1893

惡縁

昭和八年二月十二日

ズリシ文

悪縁の悪縁

目歐縫情結赤繩
贏得市井兒女憐
色即是空應頓悟
法劍一閃絶惡縁

聯盟と

日本のかんや
くさ北縁
たち切りて
こそ浮む
瀬のあは

中野秀人



1894

熱河討伐決定

昭和八年二月十八日



日本

殺すところか面倒だ
足腰の立たぬ程度に
おぐりつけて
置くか

泥棒

泥棒

泥棒

泥棒



1895

孤影悄然号堂帰

昭和八年二月廿日



号堂

満州へ手を出したのがそもぐの誤り、
聯盟脱退は誤りの上塗りだ。

しかも侃々諤々の論を吐けは
のさめるかも知れぬ。

嗚呼忠あらんとすれは

いのちが危ない

明哲身を

保たんと

すれは

忠

不

ず

ある

まじき

ものい

政治

家じやふあ



1896

聯盟感如何

昭和八年二月廿六日



大國連

敵ながら天晴
此の武者振だ
ウカリ追窮
すると返り討ち
ぬふるぞ

日本



小國連

「イヤに落ちつき排つて居やる
追つかけて後からハッサリと
やつけたらどうだ」



熱河

赤峯

1897

熱河掃蕩在旬日內

昭和八年二月廿七日



1898

獨逸議事堂全焼
ヒトラー共産党員を逮捕す



昭和八年二月二十八日

ヒトラー
共産党を
ひつとらへ



1899

重臣耄す

昭和八年二月二十八日



牧野
「ナルホド
脱退す
れば日本
は危ふ
い訳じ
やあ

西園寺
「勿論、
自ら進
んで孤立
無援の窮
地に陥るは
愚の骨頂じや

山本

「そうじや、若い者は
血気にはやつてイカン
世界の太勢を見にやあらん

幣原
「……結局
脱退は宜
しくありま
せん



1900

三陸大震大海嘯

昭和八年三月三日



地方	死亡	賈燭	不明	寶慶	寶慶	寶慶	寶慶
碧手	三八〇	二七六	六九九	九七一	二四五三	二二一	
會森	八	七	二一	一三	五九	一	
宮城	一五六	二六	二七	二八三	四四〇	一	
北邊	二一	一	四	一二	一一	一	
合計	五五五	五八	九四八	二七九	二九六三	二二一	



被宰統計